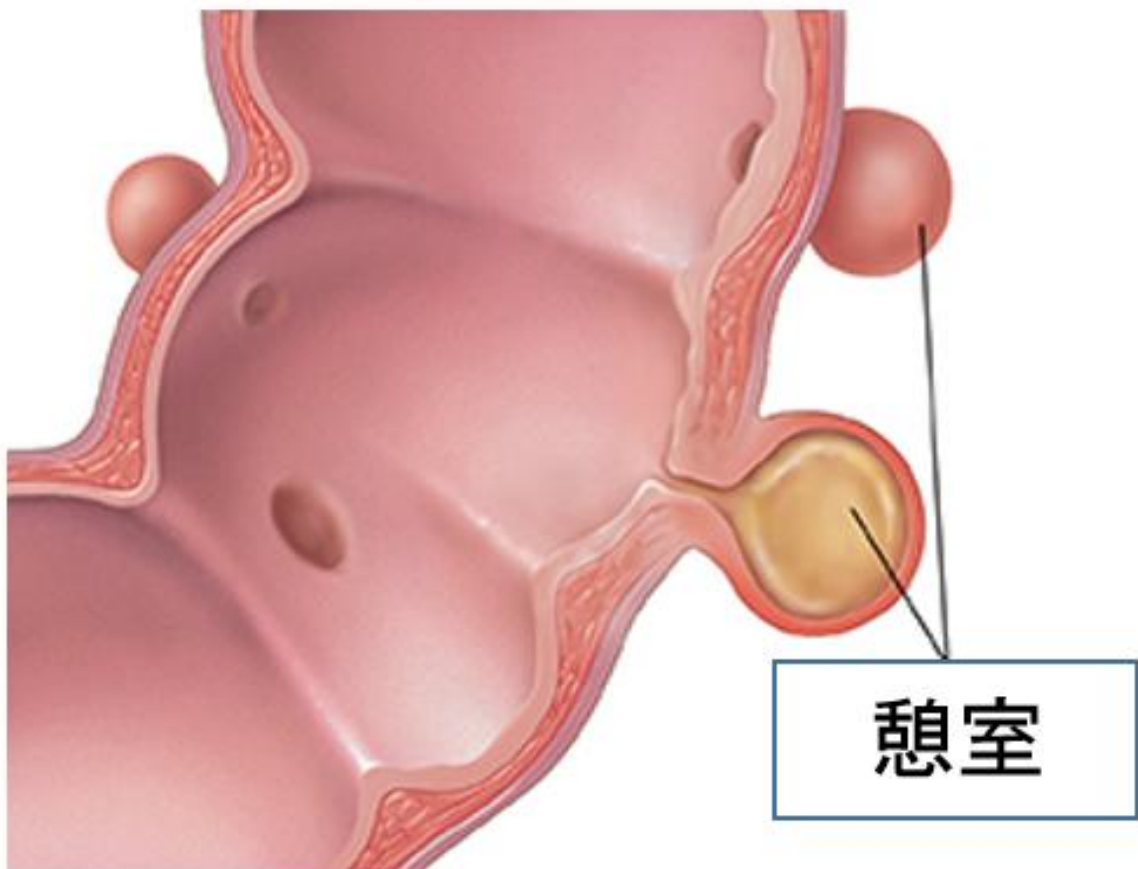
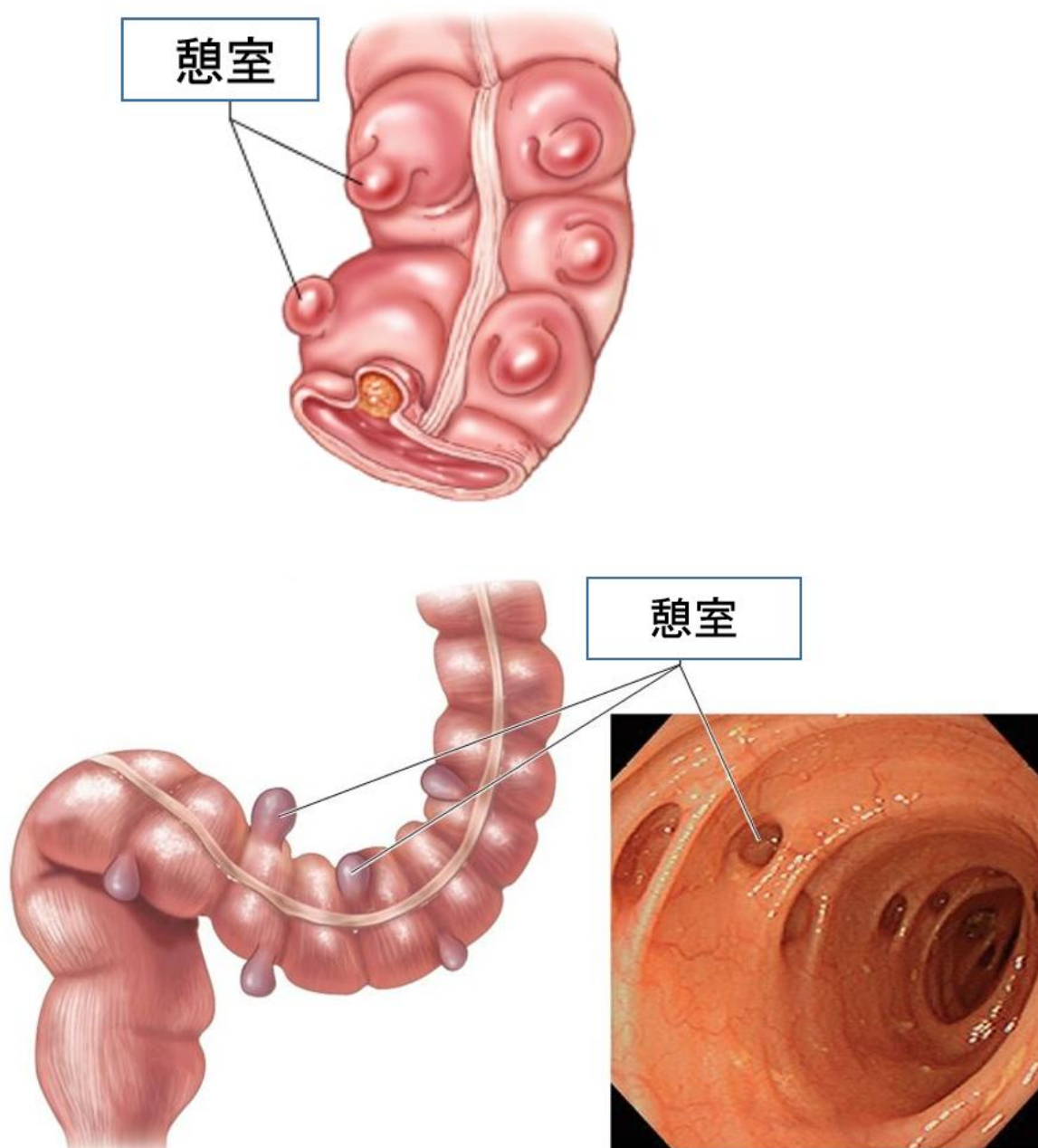


大腸憩室

憩室とは腸管の壁が外側に向かって袋状にとびだしたものです。



憩室の数はさまざまで、頻度は年齢とともに増加します。欧米では70歳の65%に認めます。



*** 症状は？

ふつうは無症状ですが、憩室をもっている患者さんでは腹痛、便秘、下痢などの頻度が高くなります。憩室による腸管内圧の上昇と腸管壁の硬化が影響していると考えられています。また、憩室炎や出血を合併することがあります。

— 憩室炎 —

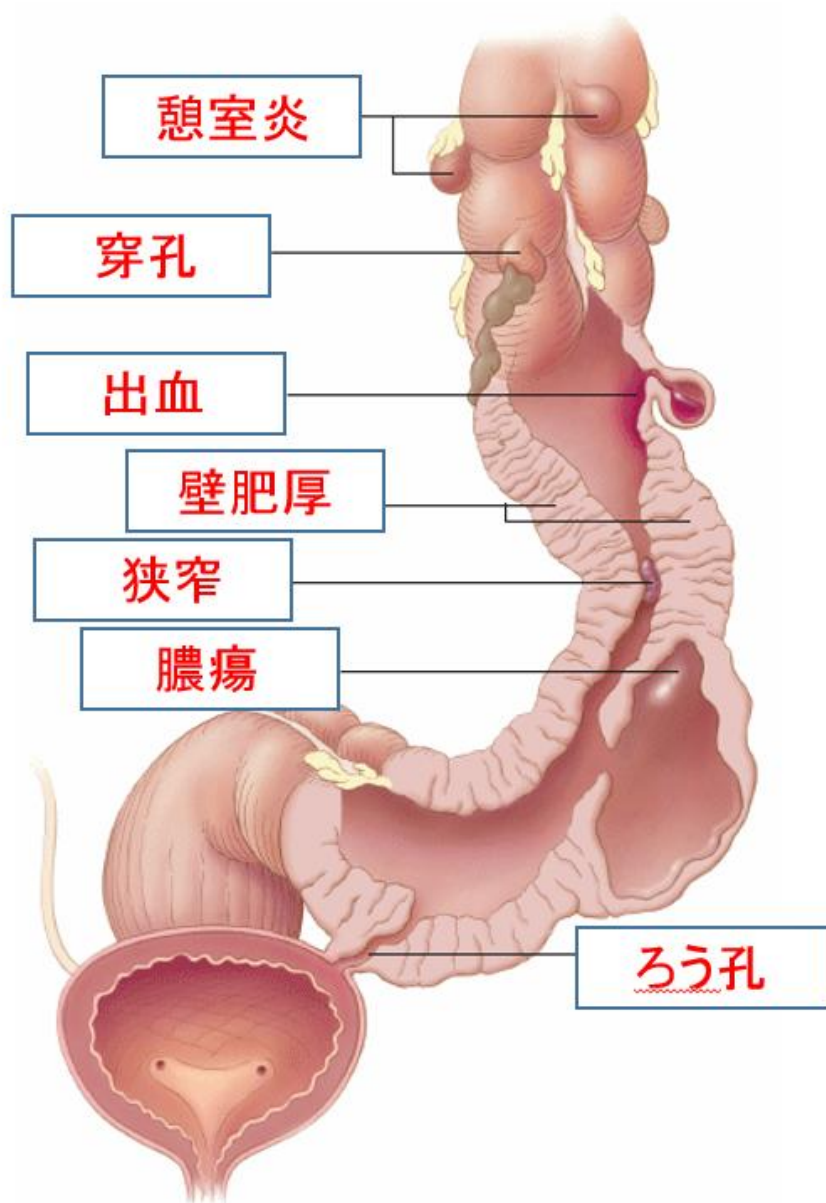
憩室に炎症をおこして憩室炎になると腹痛、発熱などの症状が現れます。1～2%程度に憩室が穿孔し、腹膜炎になるこ

とがあります。盲腸など**右側**の大腸の**憩室炎**は急性虫垂炎と症状が似ていて、鑑別が困難なこともあります。検査で大腸に**憩室**があるといわれた方は、腹痛や下血で病院を受診した際に**大腸憩室**があると申し出るようにしてください。

— 出血 —

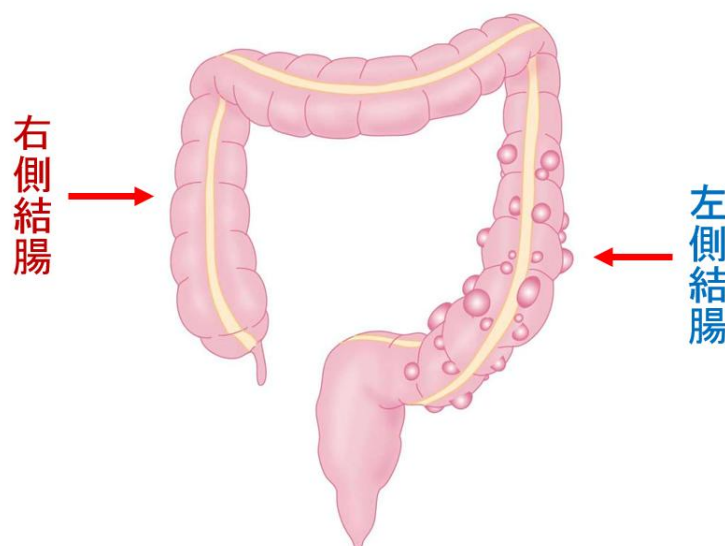
憩室のなかの血管が破たんし、出血することがあります。動脈硬化性因子（高血圧、高脂血症など）、出血性因子（抗血栓薬の服用など）やアスピリンなどの消炎鎮痛剤の服用はリスクを高めます。

憩室炎や**出血**は再発しやすく、時に重症となり入院治療や外科的な治療が必要となるため、症状のある方は早めの受診をおすすめします。



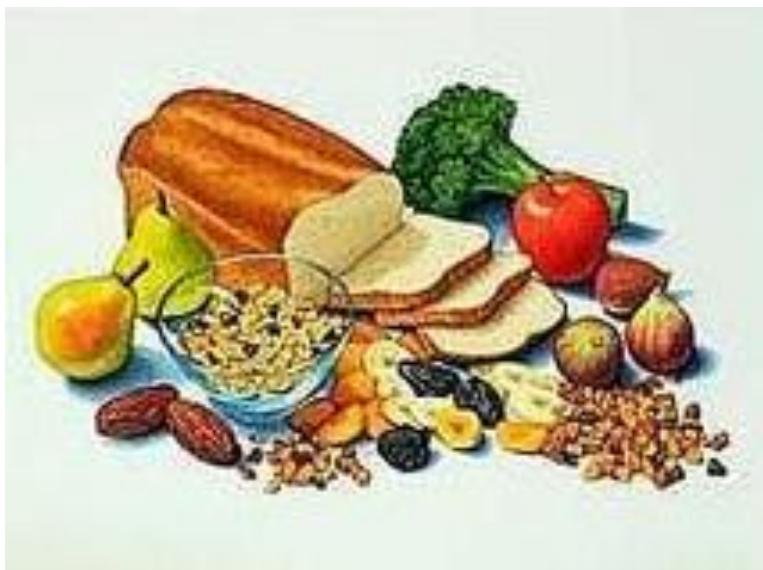
*** 原因は？

腸管内圧の上昇に伴い大腸壁の筋層の弱い部分から粘膜が脱出して憩室が生じると考えられています。影響する因子として、食生活の欧米化による食物繊維の摂取量の減少、便秘による腸管内圧の上昇、腸内細菌による腸管の炎症、腸管壁の加齢性変化などがあげられます。とくに、左側の憩室は年齢に伴って増加します。



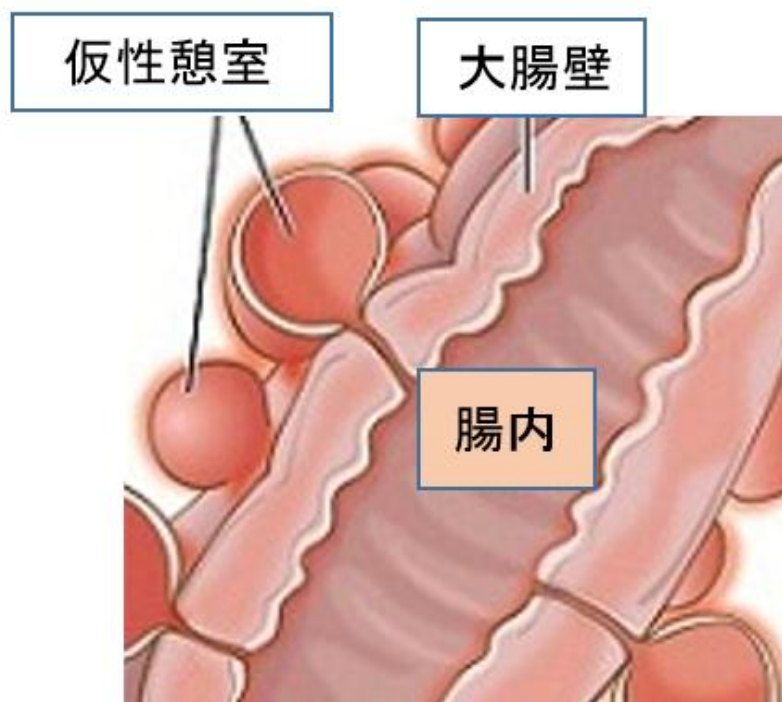
*** 日常の注意点は？

線維の多い食事を心がけるとともに、便秘をしないように薬を服用することが大切です。なんども憩室炎をくり返すと、大腸が細くなったり癒着を生じて、便やガスの通過が悪くなり、便秘や腹部膨満が続くようになりますので、そうなる前に一度ご相談ください。



補足

憩室には腸壁全体がとび出す**真性憩室**と腸壁の筋層のすきまから粘膜部分のみがとび出す**仮性憩室**の2種類ありますが、**大腸憩室のほとんどは仮性憩室**です。欧米人に多い疾患でしたが、最近、日本でも増加傾向にあります。



憩室の**存在部位**は、欧米人では下行結腸からS状結腸にかけての**左側**が、日本人では上行結腸から盲腸にかけての**右側**が多かったのですが、最近では日本でも特に高齢者において**左側**の憩室が増えていきます。

